



## 伊 佐 麗

東京大学第3学年

(沖縄県立那覇国際高校出身)

### 令和4年度沖英寮祭にて

私は、故郷である沖縄を愛しています。愛しているからこそ、東京への進学を選択しました。沖縄は自然が豊かで文化も独特であり、気候も人も温かい一方、地理、経済など様々な側面でディスアドバンテージも存在しておりそれに伴う社会問題を抱えています。個人的には、県費で長期留学に行かせていただいたことや、那覇国際高校に進学したことで情報格差による教育格差を痛感したため、教育の方面に関心を抱いてきました。

私も家庭は裕福な方ではないのですが、県の奨学金やこの沖英寮の存在により、県外進学が可能になりました。そしてこのような環境に恵まれた以上、県外進学、それこそ東京大学に進学し、学んだことを沖縄に持ち帰ることが、うちなーんちゅである私にとっての使命だと信じています。

当初は教育に関心がある故、教育学や学習の方法論確立のための言語学などを専攻にしようと考えていたのですが、現在は院進も視野に入れて脳科学を中心とした心理学を学ぶ理系学科に所属しています。そうして自らの専門性を高めることで、ゆくゆくはOISTなどの国際的な教育機関で海外への目も向けつつ、沖縄の学生らに直接学問の魅力を伝えることができれば嬉しいです。

正直、沖縄が好きすぎるあまり東京での生活を苦しく感じてしまうことも度々あるのですが、いつも方言の飛び交う沖英寮が自分の帰る場所としてここ東京にあるのだと考えるだけで、それが力になり踏ん張ることができています。東京で刺激的な経験をしつつ、沖縄の人にも囲まれ、沖縄からのエールもお世話になった方々や企業の皆さんからいただき、精神的にも健康的な生活です。私達をここで支えてくださる皆さん、沖縄から支えてくれる皆さん、全ての方々に感謝しています。勉学においてもその他においてもこれから経験することの方がもちろん多いですが、私の大好きな沖縄そのものを原動力に、沖縄へ沢山恩返しができるよう精進していきます。

今回は寮生の伊佐麗さんに原稿を依頼しました。快く引き受けてくれました。

一年間の海外留学の経験があるなど彼女の大学生活は輝いています。

先日は彼女の属するサークルで公演があり鑑賞のため東京大学を訪問させていただきました、英語によるミュージカルで2時間という長い時間を感じさせない感動的な作品でした。

記載責任者 寮監 儀間清浩